

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第1回藤井寺市市民協働推進委員会
開 催 日 時	令和6年8月2日（金）13時30分から15時30分まで
開 催 場 所	藤井寺市役所 3階305会議室
出 席 者	（委員） 石田易司（委員長）、足立義幸、上田裕彦、津上玲子、柳邦彦、加藤信子、 田中和美、遠藤寿浩 （事務局） 龍見協働人權課長、山本チーフ、前川主事
欠 席 者	中辻智子、前原由幸
会 議 の 議 題	・市民活動サポート業務について ・職員のための市民参加手続きマニュアルについて ・地域コミュニティの活性化について
会 議 の 資 料	【資料1】 令和5年度 藤井寺市市民活動サポート業務 実績 【資料2】 職員のための市民参加手続きマニュアル 【資料3】 第六次藤井寺市総合計画（抜粋）
会議の成立	藤井寺市市民協働推進委員会規則第6条第2項の規定により成立
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☐ 会議の議長の確認を得ている ☒ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍 聴 者 数	1 人
その他の必要事項	

審 議 内 容	(発 言 者、発 言 内 容、審 議 経 過、結 論 など)
1 開会 ○会議の運営について 事務局より説明。会議の公開について出席委員全員了承された。 ○委員及び事務局自己紹介 ○委員長及び副委員長選出 藤井寺市市民協働推進委員会規則第 5 条第 1 項の規定に基づき、委員の互選により、委員長に石田委員が、副委員長に中辻委員が選出された。 ○委員長挨拶 2 議題 (1) 市民活動サポート業務について (石田委員長) 市民活動サポート業務について事務局から説明をお願いします。 (事務局) 藤井寺市では協働のまちづくりの推進を図るため、市民活動の担い手への支援および多様なまち作りの主体間の繋ぎ役となる中間支援業務を行うサポート業務を平成 30 年度より実施している。令和 5 年度においても、市民活動相談会と市民活動スキルアップセミナーを実施したため、その内容について報告する。 —資料 1 に沿い、詳細説明— (石田委員長) 何か意見はあるか。 (田中委員) NPO などの団体の立ち上げ支援は大事だと思うが、立ち上がった団体のフォローやアドバイスはしているのか。 (事務局) そのための相談会であり、セミナーと考えている。また継続性の観点から団体の自立も大事な要素であり、運営に関しては団体の主体性に任せている。 (石田委員長) 相談会は令和 4 年度が 18 件で、令和 5 年度が 8 件と減っている。セミナーは好評なのにセミナーをやめて相談会だけ残すというのはどういうことなのか。 (事務局)	

相談会は、市民活動のサポートに必要で、かつ専門知識がないと対応できないため残している。

（石田委員長）

この事業も含め市が協働に関する事業を減らすことで、市民活動をしよと思う市民も市が本気でないと考えると思う。何か仕掛けをしていっていただきたい。

団体を維持していく面で皆さんどのような取組みをされているのか。国際交流協会の足立委員はどうか。

（足立委員）

ボランティア団体全体に言えるかどうかはわからないが、人との繋がりで入ってきてもらえるのが一番だと思う。表立って募集しても、過剰な期待をするものではないと思っている。声をかければかけるほど離れていくこともある。

団体を維持していくためには、活動内容を定期的に発信していくなど、地道に続けていくことが大切だと思う。

（２）職員のための市民参加手続きマニュアルについて

（石田委員長）

職員のための市民参加手続きマニュアルについて事務局より説明をお願いします。

（事務局）

本マニュアルについては、昨年５月の本委員会でガイドラインとしてご意見いただいた。そののちにわかりやすさを重視してマニュアルという名称に変更したものである。今回はマニュアルを令和６年３月に策定したためその内容について報告させていただく。

—資料２の内容説明—

（石田委員長）

何か感想や意見はあるか。

（田中委員）

このマニュアルは市役所の職員に周知徹底されているのか。

（事務局）

マニュアルを参考にしながらやっていただくよう周知している。

（田中委員）

個人的には防災に関して、もっと出前講座などをしていただいて、市からの情報を身近に感じられるよう取組みしていただけたらと思う。

（柳委員）

私の地区では自主防災会が年に 1 回、市の協力を得ながら訓練をしている。そこでそういった話はしていただいている。

（上田委員）

区長会では各地区で自主防災訓練をやっていただくよう働き掛けを行っている。また校区単位でも防災訓練を実施している。防犯に関しても市は動いてくれない。防犯カメラも地域が自治会費から費用を捻出して自主的に設置している。地域は我々市民で作っていくという自治意識が大事だと考える。

（石田委員長）

防災、防犯はどこでも影響する大きなテーマなので必要な活動だと思う。あとは、すべての市民が自分事と考えてもらえるかどうか。自分たちでやる分と市にお願いする分のバランスはすごく大事。すべてを行政だけでやるには限界があるが、行政が動いてくれない場合や行政に訴える場合には、まず市民が動かないといけない。能登半島地震の復興が遅れているのも、ボランティアの受け入れをせず、行政だけでやろうとしたことが原因だと思う。行政と市民がどのように協働して取組みを進めていくのかは非常に重要なことである。そういう意味でこのマニュアルを策定したと理解しているので、市もマニュアルに則りしっかりと取り組んでいただきたい。

（３）地域コミュニティの活性化について

（石田委員長）

議題３について事務局より説明をお願いします。

（事務局）

第 6 次藤井寺市総合計画に定める「協働・共創のまちづくりの推進」、「地域コミュニティの活性化」を進めていくことに対して、所属団体の目線から、どのような取組みを勧めていけばよいのか、また自治会を活性化させるためにどのような施策が必要と思うのかご意見を賜りたい。

—資料３に沿い、詳細説明—

（石田委員長）

ボランティア活動は何かテーマをもって活動をされているテーマ型と自治会のようなエリア型の大きく二つある。津上委員は犬や猫をテーマにどちらも参加されていると思うので、実践されている活動の話をしていただきたい。

（津上委員）

活動のきっかけとしては、近所に野良猫がたくさんおり、糞尿や鳴き声、ゴミあさりの問題で、市や自治会に苦情が来ていた。市も自治会も解決できなく、誰かがやらないといけないっていうところから TNR 活動を始めた。

猫の場合、飼い猫なのか、野良猫かわからないので、自治会の回覧板で活動の周知と、猫を外に出さないようにという案内をしていただいた。自治会と一緒にやるようになって5年ぐらい経つが野良猫の数も飼い猫を外に出す人も減り、困っているという方も少なくなってきたかなという印象。

（上田委員）

以前までは自治会に加入するメリットは市広報紙の配付だった。今は業者が全戸配布するようになって、繋がりが薄れてしまった。防災や防犯など自治会の取組みをPRして自治会の加入の必要性は訴えているが、本当に目に見えて加入率は減っている。また老人はどんどん増えているのに誰も老人会に入らない。

（加藤委員）

役員をするのが嫌だという声はよく聞く。

（津上委員）

私は今PTAの会長もしているが、どの学校も特にPTA会長を決めるのに苦労していると聞く。

（遠藤委員）

私の住んでいるところの自治会の子供会は3世帯しか入っていない。今いる子どもが中学に上がるときにはもう解散しようということが決まっている。これから入ってもらえれば継続できるが、今加入すると、その親は必ず何かの役をしてもらわないといけないので入るのを躊躇されるのかなと思う。

また10年ぐらい前に自治会に新規で入ってくれた人がいたが、メリットがなくなったから出ていった。損得で考える人が多い。なかなか解決は難しいと思う。

（田中委員）

今の自治会の減少や市民活動のことなど、市として情報発信をもっと積極的にしてみてもどうか。文字が多くても読まれないので、端的に具体的に記載するのがよい。

（足立委員）

私はPTAはボランティア組織と考えているが、PTA会長の打診があった際、「断り切れず受けた」という一面はある。務めるにあたってボランティアについて調べると「強要せず、できる時にできることをできるだけやる」というものであった。なので、私は皆さんに「自分の都合を優先してください、ただ休む時には連絡だけください、面倒だという理由でも構わない」とお伝えしていた。ある意味リスクのある発言ではあったが、不思議とほぼ皆さん来てもらっていた。強制ではなく、自主的に行こうと思ってくれた結果だと思う。3～5年ぐらいかかったが、おかげでPTA役員を決めることにさほど苦労はしなかった。

地域コミュニティも「活性化させるために自治会に入ってもらおう」という組織ありきのスタンスから始めるのではなく、コミュニケーションをとれる環境ができてから自治会に入る、という順序だと思う。特に若い人は新しい環境だと抵抗感（警戒心）が先にくるので、自治会にどんな人がいて、どんな活動をしていて、どんな地域貢献をしているのか、そのあたりの理解が深まった

ときに初めて協力であったり、加入であったりが出てくると思う。そのためには、地域の情報を SNS を使って発信するなども方法のひとつかもしれない。

（加藤委員）

すべて SNS でやってしまうと、それこそコミュニティの繋がりがなくなると思う。繋がりを作る共通の場として自治会は必要だと思う。

（足立委員）

SNS でなくても、チラシ配布でもいいと思う。だが若い人は基本的にはまずはネットから情報を得るのがベースになっていて、多分チラシは配っても見ない人もいる。そういった若い人たちともコミュニケーションをとる必要があると思うのであれば、歩み寄りも一定必要ではないか。だが必ずそうしないといけないというわけでもなく、状況を理解した上で、できる範囲でできることをすれば良いと思う。

（石田委員長）

若い人は自分の生活、自分の考え方を大事にしている。その人たちを年寄り側はどう巻き込んでいくかを考えないといけない。俺らの言うことを聞かないのはけしからん、という発想では若者は寄ってこない。それに自治会だけが地域の問題解決組織と思っていない人が山ほどいる。いろんな手段、方法があって、今は NPO や社団法人、いろんな団体が、全国的にも増えてきている。一つの組織だけに固執してやっていくのは今後難しい。

（足立委員）

例えば、「自治会で子どもたちに対して何かやります」となったときに、「自治会に入っている子どもじゃないと参加できない」となってしまうと、せっかくの広がり機会を失ってしまう。そういう意味では、コミュニケーションを取れる関係になった先に自治会に入ろうという形になるのが、理想の形なのではないかと思っている。

（上田委員）

今おっしゃるように私たちの地域は新しいお祭りをやることで団結を図ってきた。まちは人が集まって暮らしている。決して一人で生きているわけではない。困ったときに助け合って生きている。そういった互助の精神から自治会はできている。

（足立委員）

自治会加入率が下がってきているとの話が冒頭にあったが、それでもまだ 60%もあるということは上田委員を始めとする自治会の方々が努力をされて、これが保たれていると思っている。自治会の方々の活動には敬意を払いますが、何でもかんでも自治会主体になるって言うようなところから、まずはちょっと違う視点で捉えてみるということがあっていいかもしれないと思う。私が PTA 会長を務めたときの活性化の取り組みには即効性はないが、続けていくことで人が集まってくるようになった。私の経験上、もう少し根気よく、自分の達成感を満たすことを目的に続けることでも、結果的に良い方向にいくように思える。

（柳委員）

私も長年老人会や地域の役員を担っていましたが、それは好きでやっていた。会計などの役をすると地域の方の顔と名前が覚えられる。天気の話や挨拶ができる関係になった。そういうことで地域との繋がりができてきた。

（石田委員長）

今日は色々な立場から意見をいただいた。これを具体的にするためにどんなことをしたらいいのか、若者の視点、高齢者の視点、いろんな視点があると思うが、それぞれが持ち寄ることで、藤井寺市が良い街になると思う。社会そのものはどんどん変わってきている。社会の変化を見極めながら、新しいコミュニティ作りを一緒に考えられたらと思う。

3 事務連絡

4 閉会